

まちづくりのポイントと方法

- ◎歴史的建造物の町並み景観を活かした商店街への集客
- ◎周辺の寺社巡りとまち歩き推進による賑わいの創出
- ◎城下町の商業文化や史跡など地域資源の魅力の情報発信

地域資源を活かす

1 観光誘客を図る方法

地域資源は何かを探り、再発見に努める。地域住民にとっては日常で見慣れたものであっても、来街者にとってみれば新鮮で魅力的な素材に映ることがある。地域単独の取り組みだけでなく、周辺のエリアとの広域連携を図りながら誘客に努めることも大事。

2 限られた予算の中で、効果的に取り組む方法

小さな情報でもマメに発信し、SNSメディアと濃密で良好な関係を築く。取材には丁寧に対応することが必要。七日町に視察研修で訪れる団体に対しても同様である。組織内で役割分担を図りながら、行政と連携してまちづくりに取り組むことも肝要だ。

3 積極的な組織活動を継続させる方法

“5人のバカ者”を見つけて、辛くとも焦らず、挫けず、楽しく取り組むことが継続の秘訣。まちづくりに対する協議会会員の熱意、機運が盛り上がる時期と停滞する時期があることをわきまえて、一喜一憂しないこと。まちづくりはゴールのない、果てしなく息の長い取り組みである。

課題と今後の展望

- 地域資源の再発見と再評価を通じて地方創生を図る。そのために次世代への教育と伝承に力を入れる。
- 非会員に対する情報の共有化とまちづくりへの参加意識の向上。
- お年寄りが安心して買物ができるような高齢化社会に対応した商店街づくり。歩道の整備や無電柱化も進めながら、公園道路の実現に取り組む。裏路地の魅力の創出。コンパクトシティの具現化。
- 門前町構想※・幸せ回廊の充実。将来は阿弥陀寺の大仏再建（現在は台座のみ残る）。
- まち歩きの魅力を発信し、交流人口（観光客）の拡大による商店街の活性化。とくに外国人観光客受け入れのインバウンドに力を入れる。
- 空き店舗対策として首都圏の若い起業家への移住促進を図る。

門前町構想 『幸せ回廊』

七日町通り周辺には物語性のあるお寺や神社が点在している。かつて大仏が鎮座していた阿弥陀寺や京都宇治茶問屋父子の奇跡の出会いにまつわるめぐりあい観音、遊女が健気に祈った笠間稲荷神社、商売繁盛の田中稲荷神社など、枚挙にいとまがない。

こうした寺社を巡る「幸せ回廊」を七日町通り周辺のまち歩き資源、あるいは会津の小さな文化遺産として位置づけ、遠い将来、阿弥陀寺の大仏再建を目標として掲げたのが七日町門前町構想である。

参考メモ

『5人のバカ者』～田村明著『まちづくりの実践』岩波新書

- ① 発想力のある知恵者（リーダー）
 - ② すぐに同調して乗りやすい人
 - ③ 働くことを厭わない人
 - ④ 雰囲気を楽しみさせる人
 - ⑤ 少し別な角度から見て、批判する目を持つ人
- ※さらに望まれる人材 / 全体をまとめる人・声が大きく元気な人・小まめに気がきく人・さまざまな作業ができる器用な人・文章やコピーが得意な人・体力のある人・動き回れる時間の余裕がある人

七日町通りまちなみ協議会 概要

- 会員 / 113名（事業所93名・個人20名） ※2024（令和6）年11月現在
- ◆事業所会員業種 / 152件（重複有り）
- 小売業（39）・飲食業（35）・サービス業（30）・製造業（24）・卸売業（5）
- 個人その他（19）
- ◆【空き店舗対策】協議会設立以来、空き店舗に32軒が入居
- ◆【店舗改修・緑化＝市景観条例に基づく補助対象】合計＝約60件

【県外の交流団体】東京都世田谷区松陰神社松栄会商店街振興組合 / 山形市七日町商店街振興組合 / 秋田県能代市「のしろ白神ネットワーク

七日町通りまちなみ協議会 <http://nanuka-machi.jp>

事務局

〒965-0042 会津若松市大町1-8-24（企画キャブ）
TEL090(2984)9113 FAX0242(33)9918
メール: sh-cap@white.plala.or.jp

七日町観光案内所

〒965-0044 会津若松市七日町5-7
TEL0242(23)9611 FAX0242(23)9621
メール: nanukamachinami@h-t.jp.com



七日町観光案内所



設立30周年記念誌



大正浪漫調のまちづくりで商店街がよみがえる

七日町の 小さなまちづくり物語

明治



下の区界限（阿弥陀寺・御三階から撮影）

大正



上の区界限（大町四ツ角方面から撮影）



上の区



中の区



下の区



JR只見線 旧七日町駅舎



2002（平成14）年に修景した現在の七日町駅舎